

入間市児童発達支援等業務委託 中間報告

受託事業者 株式会社スペクトラムライフ

はじめに：児童発達支援センターの位置づけ

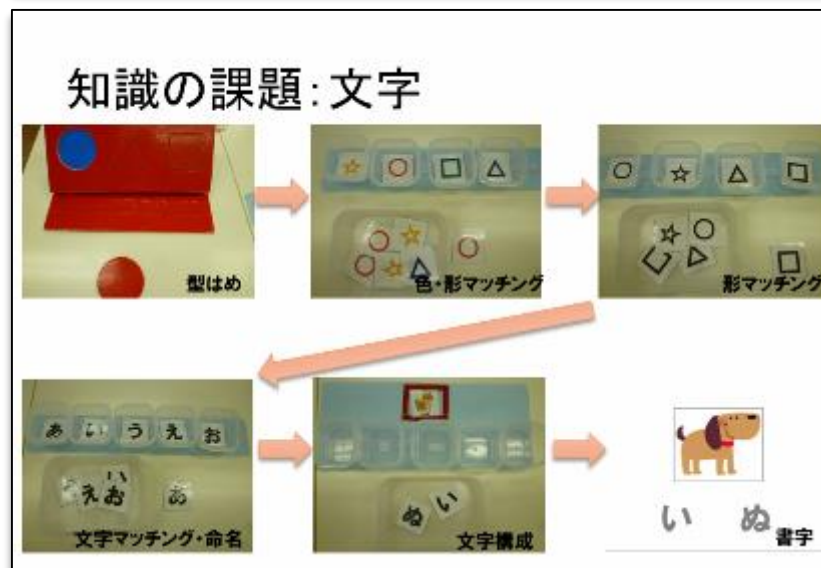
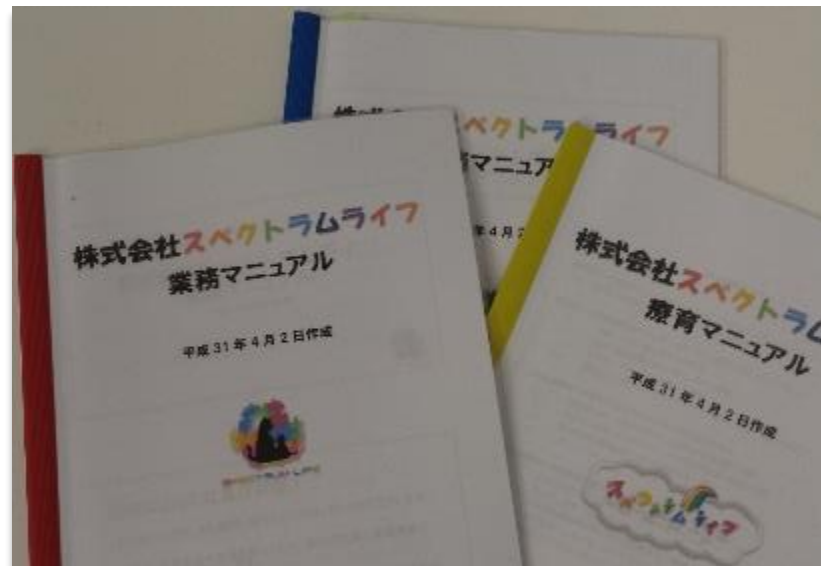
- ▶ ① 「障害の重度化・重複化や多様化に対応する**専門的機能**の強化」を図った上で、② 「地域における**中核的な支援施設**」として、一般の「事業所と密接な連携」を図るものとされている（厚労省「障害児通所支援の在り方に関する検討会」第1回(R3.6.14)資料4）。
- ▶ 児童福祉法第21条の5の17第2項の規定において、指定障害児事業者等は、その提供する障害児通所支援の質の評価を行うことその他の措置を講ずることにより、障害児通所支援の**質の向上**に努めなければならないとされている（厚労省「児童発達支援ガイドライン」P39）。

質の向上に向けた取り組みの3要素

- ① 業務のマニュアル化・システム化
- ② 人材育成
- ③ 現場におけるケースに応じた様々な取り組み

業務のマニュアル化

- ▶ 業務マニュアル・療育マニュアル（センター版）・療育マニュアル（個別指導版）を作成し、それに基づく管理・業務遂行。
- ▶ マニュアルは写真やイラスト、図表等、視覚的に受け入れられやすい作りにし、使用の徹底。



業務のシステム化

療育相談の助言のデータベース化

支援計画類の書式の工夫

通所支援計画の サンプル蓄積

Dropbox / 全教室共通 / 療育相談データベース

全 アップロード + 作成 整理 ...

ファイル名 ↑

- その他
- 感覚
- 関わり方
- 行動上の問題
- 両足さ
- 食事
- 睡眠
- 言葉
- 排泄

トイレの練習プログラム	
目標	トイレの一連の流れ
方法	決まった時間にトイレの一連の流れを徐々に手助けをします。練習中、スケジュール
一連の流れ	1. スケジュール 2. トイレに移動 3. 服とパンツ 4. 便座に座る 5. おしっこ 6. 紙で拭く 7. 水を流す 8. 服とパンツ 9. 手を洗い 10. 次のスケジュール
事前の	● スケジュール

トイレ 困った時のQ & A	
困ったこと・疑問	アイデア
立っておしっこする際に便器から外れてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> 色つきのトイレットペーパーを水に浮かべて的に見立て、おしっこで当てるゲーム形式で教える。 もし失敗して外したらなるべく自分で拭かせる。
立っておしっこする際に、出し切る前に動いてしまい便器の外に飛び散ってしまう。	<ul style="list-style-type: none"> おしっこが止まってから、数秒（5秒または10秒くらい）数えてあげて、その間止まっておくことを練習する。
水を流すことに没頭してしまう。	<ul style="list-style-type: none"> トイレ内スケジュールの順番で、「流す」を一番最後に持ってきて、流すことをごほうびにする。 スケジュールをトイレハンドル前に設置。 ハンドルに禁止マークを貼り、流すとさだけりす。
壁を手で触ったり、壁をたたいたりしてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には触らないよう身体的にブロックする。 万一してしまった場合は、洗浄殺菌を徹底し、さらに（身体介助しながら）その周辺の掃除をさせる。

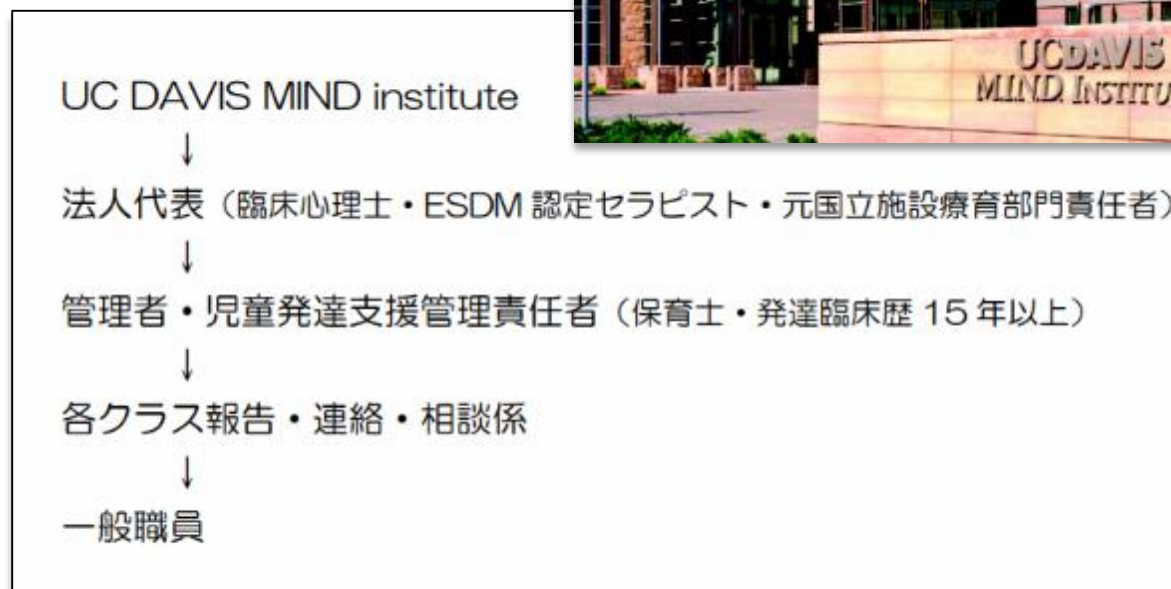
対象児氏名：	記入日：令和 年 月 日	実施時期：令和 年 月～ 月	児児管：		
長期目標					
短期目標	目標	根拠	手立て	達成基準	評価
全体評価					
次期への展望					

社会性	提示された2個の玩具から1つを選択する。	選択は早期の社会性発達において重要な要素であるため。	玩具を提示するときに、なるべく2つを同時に提示し、1つを手にとった瞬間にもう一方を隠す。	4/5 の割合で選択でき、それが3セッション以上連続する。
	担当者の指差しの先を見ることができるようになる。	現時点であまり頻繁に指差しの先を見ず、また指差しを見ることは早期の社会性発達において重要な要素であるため。	本人が好きで注視するものを提示する際に、必ず指差し命名しながら提示する。	4/5 の割合で指差しに反応でき、それが3セッション以上連続する。

人材育成：多層指導システム ・ビデオフィードバック



▶ 多層指導システム：



- ▶ ビデオフィードバック：療育場面を動画撮影し、振り返りながら技術指導（応用行動分析学〔ABA〕の原則に従い、例えば「スタッフの良い行動を指摘して褒める」「要改善点は具体的な対案を提示する」等）

現場におけるケースに応じた様々な取り組み

①視覚支援・構造化

玄関



共用エリア



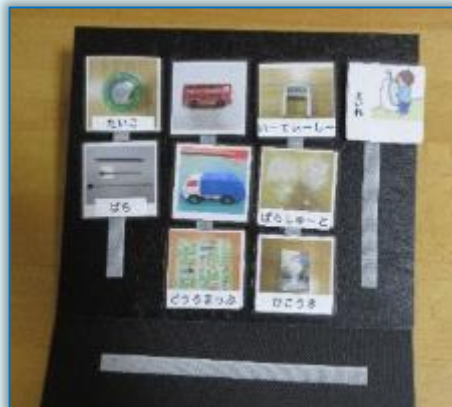
各クラス



現場におけるケースに応じた様々な取り組み

②感覚/コミュニケーション/社会性発達支援・家族支援

感覚／コミュニケーション／社会性発達支援



家族支援



各クラス相談は随時受付
(担当または児発管が対応)
R2年度：6件
R3年度：46件
R4年度：半年で16件

今後の課題

▶ **拠点施設**としての役割確立ためには、

- ①受け入れケース数についての検討
- ②本来の療育業務以外の業務（例えば、コロナ対応）の軽減の検討
- ③関係機関に「拠点施設」と認識して頂くための工夫の検討

が必要かもしれない。